

講道館柔道創始者・嘉納治五郎師範・生誕地
第17回 KOBE 自他共栄 CUP

国際柔道シンポジウム

2021 Jita-Kyoei International Judo Symposium



国際社会において柔道はどのような役割を担えるのか？

■シンポジスト

- ・「フランスにおける柔道の社会的役割」 Yves Cadot(トゥールーズ大学)
- ・「オーストラリアにおける柔道の発展」 Stockley Davis(西オーストラリア大学)
- ・「嘉納治五郎は世界に何を伝えたかったのか」 永木耕介 (法政大学)

■ファシリテーター 曾我部晋哉 (甲南大学)

日 時 令和3年3月7日(日) 16時00分~18時00分(日本時間)

方 法 オンラインにて(ZOOM ウェビナー)

主 会 場 甲南大学

主 催 兵庫県学生柔道連盟 神戸柔道協会 神戸新聞社

共 催 神戸市 日本武道学会柔道専門分科会

後 援 講道館 兵庫県柔道連盟 兵庫県教育委員会 神戸市教育委員会 兵庫県体育協会

協 賛 みなと銀行文化振興財団 ユーハイム体育・スポーツ振興会

挨拶

第17回 KOBE 自他共栄 CUP 国際交流シンポジウムの開催にあたって



兵庫県学生柔道連盟
会長 山崎俊輔

日頃より兵庫県学生柔道の活動に対し、ご理解とご協力を賜わり、心より御礼申し上げます。

昨年度の第16回 KOBE 自他共栄 CUP「学生柔道大会」は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い大会は中止となりましたが、例年募集しておりました自他共栄賞・自他共栄標語コンクールの授賞式は、上村春樹講道館長出席のもと無事に実施することが出来ました。本年度の第17回大会におきましても、昨今の厳しい状況を鑑み、柔道競技大会の部は昨年に続き中止とします。しかし、このような状況だからこそオンラインによって国内のみならず世界中の柔道を愛する皆様と情報交換を図る場を設けたいと考え、柔道競技大会の代わりに KOBE 自他共栄 CUP 国際交流シンポジウム（ZOOM での実施）を開催することに致しました。また、自他共栄賞・自他共栄標語コンクールの授賞式は、昨年同様実施します。

本大会は、県内外における有志の各大学柔道部と神戸市内の小・中学生が、嘉納治五郎先生の生誕地・神戸に一堂に会し、柔道精神の原点に立ち返るべく開催するものであります。これまでは、本大会の主旨にご賛同して頂いた多くの方々のお陰をもちまして無事成功裏に終える事ができました。阪神淡路大震災から20年という節目の年である第11回大会は宮城県気仙沼柔道チーム（小学生、中学生男女）、第12回大会にはブータン王国、第14回大会にはカナダステューブストーン柔道クラブを招待いたしました。また、学術的な交流を図るために、これまでに計3回の国際交流シンポジウムを実施するなど、本大会を通じて柔道の競技力のみならず、様々な交流や行事、シンポジウム等を有意義に行って参りました。

今年度も、本大会の取り組みが青少年の将来の夢と希望へと繋げられるように、実現可能なことを全力で取り組みたいと思います。

今後共、皆様方のご理解、ご支援が賜れますようお願い申し上げます。

第 17 回 KOBE 自他共栄 CUP 国際交流シンポジウムにあたり



講道館長
上村春樹

「第 17 回 KOBE 自他共栄 CUP—学生柔道大会—」が、「国際交流シンポジウム」として開催されますことを、心からお慶び申し上げます。嘉納師範は若くして、さまざまな学問を修めながら没頭された柔術修行の中で、古来伝わる柔術に多大な教育的価値を見出されました。そして柔術の技術に一貫する原理の把握と探求に努め、従来の柔術を抜本的に合理化・体系化することによって勝負、体育、修心を柱とする日本傳講道館柔道を創始されました。

師範は、競技としての柔道を推奨するとともに、「柔道は心身の力を最も有効に使用する道である その修行は攻撃防御の練習に由って身體精神を鍛錬修養し斯道の真髓を體得する事である さうして是に由って己を完成し世を補益するが柔道修行の究竟の目的である」と、柔道の本義と修行の目的を表しています。「己の完成」とは勝負の修行を通して「精力善用」の原理を身につけ、さらに智徳を磨いて人格の完成を図ることであり、「世を補益」とは「自他共栄」達成のために尽すということです。「精力善用・自他共栄」を生活のすべてを律する規範とし、心を磨き、体を鍛え、豊かな人間性を育むこと、すなわち教育、人づくりこそが柔道の本質です。現在、柔道は 204 の国と地域で競技者、愛好者を集めるなど、世界の文化として広く普及しています。私たちは、先達が創り、築いてこられたこの講道館柔道を後世に正しく伝え継いでいかなければなりません。

新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の災禍に直面し、これまでに「当たり前」と思っていたことが、実は「有り難いこと」であったと再認識しています。数々の大会やイベントが中止になったことで、あらためて柔道への取り組み方、考え方を見つめ直す機会となりました。それぞれの立場で何ができるのかを真剣に考え、さらに考え尽くし、実行することが大切です。これまでの経験を生かし、取り巻く環境の変化に適応しながら、多くの方々が柔道に触れて、興味を持って、応援してくださるよう、皆様にはご協力をお願いする次第です。

嘉納師範は、「形」「乱取」「講義」「問答」という修行法を示しました。本シンポジウムに参加される皆さんには、これらを偏りなく、「形」で理合いを学び、「乱取」で応用を工夫し、「講義」で知識を得て、「問答」で考える力を養うことで、「己の完成」を目指し「世を補益する」という嘉納師範の教えを体現されることを期待しております。

むすびに、本大会の開催にご尽力された関係各位に深く敬意を表しますとともに、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様のご健勝を祈念申し上げます。

祝 辞



兵庫県柔道連盟
会長 藤木 崇博

「第 17 回 KOBE 自他共栄 CUP—学生柔道大会—」が、国際シンポジウムの形で開催されますことは、兵庫柔道関係者にとりましてこの上ない喜びであります。

本大会は、柔道精神の原点に立ち返ろうという気持ちと平成 7 年の阪神・淡路大震災の際に多くの方から受けたご支援やご激励の恩に報いるために、平成 17 年から開催されています。第 1 回大会では県内外の大学生有志による試合が開催され、その後は一昨年まで、県内外の大学生、神戸市内の中学生および小学生の試合が行われてきました。

日本の将来を担う青少年達が日頃の稽古の成果を十分に発揮し、「嘉納治五郎師範生誕の地」である兵庫・神戸の大会に相応しい、礼節のある試合が続いていくことを嬉しく思っています。新型コロナウイルス感染の収束後には、それらの試合を通して、改めて「自他共栄」の精神と友好親善の気持ちが育まれることを願っています。

このたびのシンポジウム「国際社会において柔道はどのような役割を担えるのか？」のなかでは、フランス、オーストラリア、日本の研究者から、柔道修行の理念である「精力善用」「自他共栄」について語られるものと想像しています。日頃、柔道の稽古に励んでいる生徒・学生のみなさんが、この国際シンポジウムに参加することによって、グローバルな視点での柔道マインドを醸成されることを期待しています。

最後になりましたが、この大会のためにご尽力くださいました皆様方に厚くお礼申し上げますと共に、今後ますます本大会が発展されることを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

講道館柔道創始者・嘉納治五郎師範・生誕地
第17回 KOBE 自他共栄 CUP ー学生柔道大会ー 大会要項

*本年度は、新型コロナウイルス感染症対策により柔道競技は中止とし、自他共栄の観点から国際交流シンポジウム(神戸市、日本武道学会・柔道専門分科会共催)を開催したいと思います。

1. 大会名 第17回 KOBE 自他共栄 CUP (神戸市、日本武道学会・柔道専門分科会共催)

国際交流シンポジウム

タイトル:国際社会において柔道はどのような役割を担えるのか?

■シンポジスト

- ・「フランスにおける柔道の社会的役割」Yves Cadot(トゥールーズ大学)
- ・「オーストラリアにおける柔道の発展」Stockley Davis(西オーストラリア大学)
- ・「嘉納治五郎は世界に何を伝えたかったのか」永木耕介(法政大学)

■ファシリテーター 曾我部晋哉(甲南大学)

2. 主催 兵庫県学生柔道連盟、神戸柔道協会、神戸新聞社

3. 共催 神戸市、日本武道学会・柔道専門分科会

4. 後援 講道館、兵庫県柔道連盟、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、兵庫県体育協会
神戸市スポーツ協会

5. 日時 令和3年3月7日(日) 16時00分～18時00分 オンラインにて

6. 会場 主会場甲南大学からのオンライン

7. 参加方法 グーグルフォームにて(申し込み期間:2月7日～3月5日) 参加費:無料

兵庫県学生柔道連盟ホームページから自他共栄 CUP コンテンツ内のグーグルフォームにアクセスし、そこから出席の申し込みをお願いします。

兵庫県学生柔道連盟: <http://hyogogakuseijudo.main.jp/>

8. ポイント付与 本シンポジウムを受講すると、指導者ライセンス更新のためのポイント(1P)が付与されます。ポイントを申請する人は、グーグルフォームに必要事項を記入の上、必要課題を実施し送信してください。追って受講証明書(PDF)もしくは郵送にてお送りします。

9. プログラム*内容につきましては、変更される場合がありますのでご了承ください。

時間	内容	所要時間
16時00～10分	開会 山崎 俊輔 大会会長挨拶	10分
16時10分～20分	ご挨拶 上村 春樹 講道館長	10分
16時20分～25分	シンポジウムの進行について 曾我部 晋哉	5分
16時25分～50分	「フランスにおける柔道の社会的役割」 Yves Cadot(トゥールーズ大学)	25分
16時50分～ 17時15分	「オーストラリアにおける柔道の発展」 Stockley Davis(西オーストラリア大学)	25分
17時15分～40分	「嘉納治五郎は世界に何を伝えたかったのか」永木耕介(法政大学)	25分
17時40分～50分	質疑応答	10分
17時50分～ 18時00分	総括 岡田 修一 兵庫県学生柔道連盟副会長 総括 閉会 紀洲谷 浩市 神戸市教育委員会	10分

Le rôle social du judo en France

Maître de conférences - Université de Toulouse



Yves Cadot

Quand on pense judo en France, on pense en fait à la discipline diffusée par la fédération française de judo. Or, cette fédération est une fédération délégataire rattachée au ministre des sports. Il nous faudra donc nous intéresser à :

- ce qui n'est pas spécifique au judo :
 - ce qui relève des obligations d' une fédération délégataire
 - ce que l' on attend d' un « sport »
- ce qui est spécifique au judo :
 - ce qui est dans les statuts de la fédération française
 - ce qui relève de l' imaginaire collectif français concernant le judo en tant que discipline.

Enfin, nous nous intéresserons à la crise actuelle du judo, et son aggravation suite au Covid 19.

フランスにおける柔道の社会的役割

トゥールーズ大学准教授 (フランス)

カドー・イヴ

フランスで柔道といえば、フランス柔道連盟が普及させた「judo」を思い浮かべる。しかし、フランス柔道連盟は、スポーツ大臣に任命された委託団体であるため、フランスの柔道の役割を考える際には下記の区別を考慮する必要がある。

- ・「柔道」に特有のものではないこと (他のスポーツにも同様に求められているもの)
 - 委託された連盟の義務に該当するもの。
 - 一般的にスポーツに求められるもの。
- ・「柔道」に特有のもの (柔道に限った社会的役割)
 - 他の連盟の規約にないフランス柔道連盟の規約にあるもの。
 - フランスの集合的想像力の一部としての「judo」のこと。

最後に、現在のフランスの柔道の危機と、コロナ禍による悪化についても述べていきたい。

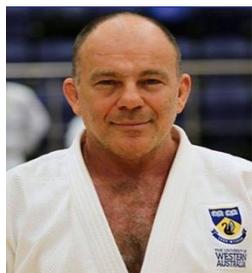
■ プロフィール

Yves CADOT (カドー・イヴ)、トゥールーズ大学准教授

柔道六段・フランス柔道連盟文化委員会委員, オクシタニー地域圏柔道連盟副会長

Jita-Kyoei International Symposium 2021.

Developing Judo in Australia: A working example UWA Judo Club.



西オーストラリア大学
Stockley Davis

Though Australia is known as a sporting nation, Judo is not a well known sport and thus has only a relatively small following. Australian registered Judoka number 6770, 60% of which are considered Juniors (Under 16 years).

Perth, Western Australia being the most isolated capital city in the World, had little Judo but offered a particularly beautiful, clean and safe environment with English and educational opportunities available to visitors.

Established in 1988, The University of Western Australia Judo Club (UWA Judo Club) has grown to be the second largest Judo Club in Australia, with some 288 members. This is the result of our 2x 5 year plans, and collaboration with our friends in Japan. UWA Judo Club has had 6 members in the National U21 Teams, and has won our first ever medals in Europe.

UWA Judo Club has developed a two pronged approach to developing their Judo Club; Community Engagement and International Exchange through a Central Dojo Concept.

Community Engagement focuses on introducing and encouraging the local community to try Judo and hopefully take up Judo as their sport. These programs include the School2Dojo UWA Schools initiative, Junior Judo Programs, Dojo Dinosaurs and Japanese Community engagement.

The International Exchange is a mutually beneficial two way exchange of students, coaches and hopefully in the future, academics. Where UWA Judo Club provides the visitors with an opportunity for a safe Australian life experience, English language study, farm life/cultural experience, international Judo coaching experiences and making friends, while the visiting Judoka, help develop our Judo at UWA, by coaching and being randori partners to the UWA Judoka.

UWA Judoka and Masters student at UoTsukuba, Kai Png in his thesis:

The Effect of International Relations in Judo Athlete Development and Sporting Performance: A Case Study in Australia and Japan

Concludes that there are many benefits to all involved, in International Judo Exchange. Over 30 years the UWA Judo Club International Judo Exchange has touched many people in a positive way. Thank you for your guidance.

■プロフィール

柔道四段・UWA 柔道クラブ創始者, UWA 柔道クラブ会長

多くの柔道家を育成し輩出するとともに日本の各チームとの交流を深め, 西オーストラリア州の柔道発展に貢献

嘉納治五郎は世界に何を伝えたかったのか



法政大学
永木耕介

嘉納治五郎は世界に何を伝えたかったのか。その答えは、煎じ詰めれば日本流の「よりよく生きていくための道徳」を伝えたかったということになる。そしてそれは、「精力善用・自他共栄」主義に結実する。ことに自他共栄は、人種・性・年齢・力・環境等の「ちがいを互いに認め合いながら共に向上していくという理想、今風にいえば“Diversity & Inclusion”の意が込められた格言であった。

本発表では、嘉納がオリンピック委員の活動と並行して展開したヨーロッパにおける柔道普及から「柔道世界連盟」構想に至るまでを概観し、彼が自他共栄主義に理想を求めている実情に迫る。そして、今日の我々に求められるのは、自他共栄主義に則り、実体としての柔道についてもその多様な在り方を創造・開発し続けていくことであると提案したい。

■プロフィール

永木耕介、1958年、大阪府生まれ。筑波大学大学院体育研究科修士課程修了。博士（体育科学）。筑波大学体育センター文部技官、上越教育大学助手、兵庫教育大学大学院教授を経て、2014年から法政大学スポーツ健康学部・大学院研究科教授。スポーツ教育学、武道文化論を専攻。主著に『嘉納柔道思想の継承と変容』（単著、風間書房）、『気概と行動の教育者—嘉納治五郎』（共著、筑波大学出版会）、『現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか—オリンピック・体育・柔道の新たなビジョン—』（共著、ミネルヴァ書房）など。